

## 患者さんをご紹介いただく際の連絡先

通常時

翌診療日以降の診察・検査予約、  
セカンドオピニオン、転院依頼など

### 患者支援センター 地域医療連携課

FAX **079-289-2055**

( 電話 079-263-8155 )

[ 平日 ] 8:45~19:00  
[ 土曜 (祝日は除く) ] 8:45~12:30

はり姫専用もしくは各地域医師会の医療連携  
FAX予約送信票と診療情報提供書(紹介状)を  
FAXしてください。予約日時が決定次第、予約票な  
どをご紹介元へFAXいたします。

緊急時

緊急の診療相談、診療依頼など

### 緊急! 医療機関専用ダイヤル (24時間対応)

電話 **079-263-8451**

[ 平日 ] 8:45~17:30  
地域医療連携課事務が担当科につながります。  
[ 上記以外 ]  
救急事務が当直医師につながります。

#### 脳卒中ホットライン

(24時間対応/医師直通)

電話 **079-263-8468**

迅速な脳卒中の専門的治療が必要なとき。  
脳神経内科・脳神経外科の医師が対応します。

#### 気胸ホットライン

(24時間対応/医師直通)

電話 **090-7046-0793**

迅速な気胸の専門的治療が必要なとき。  
呼吸器外科の医師が対応します。

#### 整形・形成外傷ほっとライン

(平日9:00~19:00対応/医師直通)

電話 **079-263-8473**

四肢の骨折、切断などで迅速な手術治療が必要なとき。  
整形外科の医師につながります。

#### デンタルホットライン

(24時間対応/医師直通)

電話 **080-8902-9670**

歯性感染症や顎顔面外傷など口腔外科疾患専門的治療が必要なとき。  
歯科口腔外科の医師が対応します。

#### 小児科直通電話

(24時間対応/医師直通)

電話 **090-1657-8048**

こどもの病気や怪我など、急性疾患・慢性疾患の急性増悪の相談や、診察・入院依頼が対象。  
小児科の医師が対応します。

#### 消化器ホットライン

(平日8:45~17:30対応/医師直通)

電話 **090-1459-0674**

吐血、下血、急性腹症を疑う腹痛などの治療が必要なとき。  
消化器内科の医師が対応します。

# はり姫と。

No.10 2025年1月6日発行

県立はりま姫路総合医療センター  
地域連携だより [はり姫と。]

———地域の医療を、ともにより良くしていく存在として



泌尿器科 診療科長  
中野 雄造 Nakano Yuzo

消化器外科・総合外科 診療科長  
柿木 啓太郎 Kakinoki Keitaro

糖尿病・内分泌内科 部長  
飯田 啓二 Iida Keiji

## 「はり姫」の 医療をかたちづくる医師たち 後編

### 今後の伸び代の大きな3つの診療科の 新しいチーフドクター

「はり姫」は2022年5月に35の診療科が揃った総合病院として開院し、翌年4月に病床数を予定の736床としてフルオープンしました。統合前の2病院で長きにわたって実績を積み上げてきた診療科に加えて、新たに開設した診療科も地域の皆さまの信頼とご支援を得て、計画以上のパフォーマンスを示せるようになってまいりました。医師数も開院時の217人から300人弱まで増加しましたが、「はり姫」は人材育成を基本ミッションの一つに掲げ

ており、さらなる人材確保を進めるとともに、それぞれの診療科ではチーフドクターが核となって、若いドクターが充実した研修を受け、中堅スタッフがさらなる臨床経験を重ねて行けるよう環境整備を進めています。

そのような中今年度には「はり姫」にとっても今後の伸び代の大きな3つの診療科で、新しいチーフドクターを迎え入れることが出来ました。2病院の統合と「はり姫」のスタートアップに尽力した前診療

科長から引き継いで、それぞれ二代目の診療科長としてさらなる発展を目指します。前任地でのそれぞれの領域での実績は地域の先生方もよくご存知の医師たちですが、ここに改めてご紹介し、今までの貴重な経験や「はり姫」での今後の展望について熱く語ってまいります。

副院長(診療支援・救急医療・感染対策担当)  
巽 祥太郎

良質な医療を、良質なチームで。

兵庫県立  
**はりま姫路  
総合医療センター**

地域医療連携課

紹介以外のご相談 電話 079-263-8150



<https://hgmc.hyogo.jp>



# 低侵襲手術から高難度手術まで。 隙のない外科診療体制で、 合併症のある ハイリスク患者さんにも対応します

専門は肝胆膵外科で、私の赴任を機に「はり姫」でもロボットの膵臓・肝臓手術を導入しました。ロボット手術のメリットは、腹腔鏡手術と同様の**低侵襲性、回復の早さ、患者さんの痛みの少なさ**だけでなく、ロボット手術ならではの**ぶれない安定した視野、関節構造を持つ鉗子や手振れ補正による精密な操作**がもたらす**手術の質の高さ**も挙げられます。

現在「はり姫」では、**食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、直腸の消化器外科全領域でロボット手術をおこなっており、どんどん推進してい**

きたいと考えています。総合外科は、臓器別専門外科に分類しにくい様々な外科手術を扱うことで隙のない外科診療体制を構築しています。特に、あらゆる腹部ヘルニア、内臓動脈瘤、正中弓状靭帯症候群、後腹膜腫瘍などに力を入れており、これらの分野においても可能な限り低侵襲手術を行うよう取り組んでいます。

**心臓などに病気を抱えた患者さんや重篤な全身合併症を持つ患者さんが多いのが「はり姫」の特徴**かもしれません。地域の先生方からの循環器治療への信頼の厚

さを感じます。合併症を持った患者さんを手術する際は、術前評価や術後管理など気にかけるべきことが多いのですが、循環器内科だけでなく麻酔科や他の診療科とも、診療科間の垣根が低く連携しやすい環境があるのが「はり姫」の強みです。各科で連携して適応評価し、できるかぎり患者さんのメリットを考えて、低侵襲手術から高難度手術まで施行できるよう取り組んでいます。**高齢者や合併症で手術が難しいとされる方も、まずは評価させていただきますので是非ご紹介ください。**

## 合併症のある症例に対する低侵襲手術症例（ロボット支援下肝部分切除）

既往症として、高血圧、糖尿病、慢性腎不全に対する維持透析中、肺結核手術後、脳梗塞、ペースメーカー埋め込み後など。他院にてペースメーカー埋め込み後の胸部CTで肝腫瘍を認めた。当院循環器内科での術前評

価にてハイリスク症例ではあるが耐術可能と判断、腎臓内科に周術期透析を依頼し手術。術式はロボット支援下肝部分切除。術後経過は良好で、合併症なく退院。

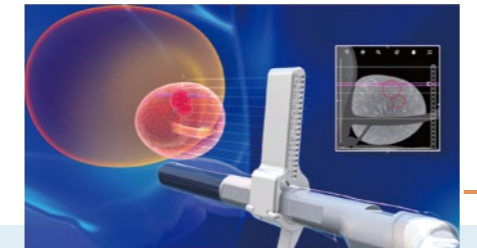
症例が増えています。患者さんのQOL維持に向けて、**できるだけ組織の損傷を回避する、残せる機能を残す。それが、術後の尿禁制や性功能の維持につながります。**根治性を担保しながら機能温存する手術は難易度が高く敬遠されがちですが、「はり姫」では積極的に取り組んでいます。

また、「はり姫」は開院時に、**撮像したMRI画像を前立腺生検の機器に同期するシステム**を導入しました。周辺での導入施設は大学病院くらいではないでしょうか。このシステムでは従来よりも正確に生検で腫瘍部分の組

織を採取できるため、**腫瘍マーカーの数値は高いのに従来手法の生検では陽性が出ない患者さんがいらした**ら、ぜひ「はり姫」にご紹介ください。

私自身は、性機能障害のほかに尿道形成も専門にしています。尿道の内腔が狭くなって排尿困難をきたす尿道狭窄症の治療は、尿道を切開したりブジーを用いて拡張する手術が一般的ですが、「はり姫」では、**尿道の狭窄部を切離し各々を吻合する尿道形成術や、狭窄部に口腔粘膜を貼り付ける手術等**をおこなっています。

## 前立腺MRI融合標的生検（画像提供：(株)アムコ）



ここ数年で、泌尿器科手術の大半はロボットを用いた腹腔鏡手術で実施できるようになりました。ロボット手術といえば安全性や患者さんの負担の少なさが挙げられますが、私たちはロボットを駆使して術後のQOLの維持にも取り組んでいます。

その一つが、**機能温存手術**です。腎臓や膀胱、前立腺のがんは、根治をめざして臓器も神経も取り除くことが少なくありませんが、合併症として、QOLを著しく低下させる尿失禁や性機能障害を引き起こしがちです。特に昨今は検診の普及もあり、比較的若い

「はり姫」の強みのひとつは、**他科との連携**にあります。たとえば、前号で大月医師（耳鼻咽喉科頭頸部外科）が話していたように、「はり姫」での**甲状腺の内科・外科連携強化**も進めています。中播磨・西播磨地域で甲状腺で悩まれている患者さんに、神戸まで行かずとも「はり姫」で治療を完結していただけたら。甲状腺に限らず、紹介していただいた**内分泌の患者さんの検査や治療を院内で完結できる施設は県内でも数少ない**ので、その点でもこの地域で役立っていきたいです。



私は内分泌疾患一筋、そのなかでも特に下垂体を専門に研究してきました。「はり姫」の糖尿病・内分泌センターの糖尿病については、**姫循環当時の2013年にスタートして10年以上が経過し、実績としても機能としてもある程度確立されています。**かたや内分泌は、これから。内分泌学会でも「はり姫」の知名度はほぼないのが実情です。**診断がつかずに困っている患者さんが実は内分泌疾患だった、というケースは少なくありません。**20~30代で若いのに何度も骨折したり血圧が異常に高いなど、患者さんに不自然な症状があったときは、内分泌やホルモンなどに異常が生じていないかお調べしますので、是非ご紹介ください。

糖尿病・内分泌内科部長  
糖尿病・内分泌センターセンター長 飯田啓二

## 内分泌疾患の院内連携例

### 甲状腺

× 循環器内科・頭頸部外科  
63歳男性。心不全と心房細動の加療目的で他院から当院循環器内科に紹介。精査中にバセドウ病が見つかり当科併診。薬物治療開始するも治療抵抗性で改善困難。頭頸部外科に依頼して甲状腺全摘術施行していただいた。現在状態安定。

### 副腎

× 脳神経内科・泌尿器科  
63歳女性。頭部筋力低下で首が支えられない症状で他院整形外科から当院脳神経内科紹介受診。糖尿病も認めため当科併診。顔貌からクッシング症候群を疑い、副腎腫瘍が原因と判明。泌尿器科で副腎腫瘍摘出していただき、頸部の筋力低下も糖尿病も高血圧も軽快した。

### 下垂体疾患

× 脳神経外科  
25歳女性。繰り返す圧迫骨折、無月経、尿路結石の原因精査目的でクリニックから当科紹介。下垂体腫瘍が原因のクッシング病と診断した。薬物療法では効果不十分。手術治療前提で現在脳神経外科と併診中。

### 副甲状腺疾患

× 頭頸部外科  
57歳女性。近医整形外科で骨粗鬆症の治療中。血液検査でカルシウムが高値であったため当科紹介。副甲状腺腫瘍による原発性副甲状腺機能亢進症と診断。頭頸部外科に依頼して副甲状腺腫瘍摘出術施行していただいた。カルシウムは正常化し骨粗鬆症も改善。

## 泌尿器科 診療科長 中野 雄造

# 患者さんのQOL維持を目指して、 敬遠されがちな機能温存手術にも 積極的に取り組んでいます

紹介していただいた患者さんを、  
他科と連携しながら『はり姫』で治療しきる。  
それもまた、地域での『はり姫』の役割なので

